TRIBUNE SHIKOKU

編集部では、読者の皆さんからの情報提供や投稿を募集しています。また当社HP上にて、NET-NEWS（￥8,400）を設け、最新情報を発信しています。

情報提供や購読希望の方はご連絡ください。
☎ (088)664-5004
FAX(088)664-4809
E-mail-tribune@mail.planning21.ne.jp

トリビューン tribune しこく

昭和31年2月27日 第三種郵便物認可　第1637号 令和8年7月15日（水曜日）

《毎月5・15・25日発行》
発行所 ㈱トリビューンしこく
〒770-0874 徳島市南沖洲2丁目4-10
電話(088)664-5219　FAX(088)664-4809
年間購読料 7,500円
阿波銀行県庁支店/口座番号・普通0318279
徳島銀行県庁支店/口座番号・普通5283742
郵便振替口座/01650-6-22468
【掲載記事、写真等の無断転用を禁止します】

とりびゅーん・しこく

新春薬師初護摩祈祷厳修
弘法大師厄除御祈願所
阿波・日和佐
四国第二十三番霊場・厄除の寺
薬王寺

当山恒例法会厄

鎮守祭	10月15日
厄除越年会	大晦日
新春初祈祷	1月1、2、3日
節分星供	2月3日
厄除初会式	2月11、12日
涅槃会	2月15日
釈尊花祭	4月8日
正御影供	4月21日
夏会式	旧5月晦日
弘法大師降誕会	6月15日
盂蘭盆会	8月13、14、15、16日
施餓鬼会	8月16日

海部郡美波町日和佐 TEL(0884)77-0023

ソウルLCCの搭乗率アップのため、韓国大学生無料招待の徳島県。四月と五月で明知大学など三校・二六八人を招待。使った公費は航空券代、宿泊費、バス代、懇親会費、観光施設入場料など約二、六八一万円。問われる費用対効果。

知事就任前からタイに出入りしていた後藤田知事。バンコクにアジアデスクを開設。職員を一人常駐させるが、タイは東南アジア主要国でGDP成長率が最低。政情不安が続き「アジアの病人」との評も。存在意味がない職員を引き揚げさせるべきだ。

ソウルLCCの卑屈な貢ぎ戦略から脱却すべきだ。徳島県の後藤田県政だ。アウトバウンドは県職員の不要な海外出張。インバウンドは韓国の学生やインフルエンサーの招待旅行。搭乗率をアップするために、県費が湯水の如く使われている。県は約十一億円の経済効果を喧伝するが、コストは非開示。費用対効果は闇の中だ。韓国との国際交流もアピールするが、取ってつけた後付け大義名分だ。自治体のLCC誘致合戦に参戦し、LCCを「金で買う」徳島県。貢ぎ戦略はLCC側に足元を見られるだけだ。「GO TO SEOUL」の号令をかけ、公僕である県職員を私兵のように扱う後藤田知事。公人と私人の区別がつかず県政の私物化を自戒できないなら、知事失格だ。

知事ポストは、個人でなく、公人。
「搭乗率アップ」に公金垂れ流し ソウルLCC
徳島県 後藤田知事
大学生やインフルエンサーを徳島に無料招待
経費非開示 費用対効果は「闇の中」

▲無料招待された韓国の大学生たち。

韓国出張に動員される県庁職員

知事選約にはなかった韓国LCC

後藤田知事にとって、ソウルLCCは棚からぼた餅だった。令和五年の知事選公約では、タイや成田LCCを掲げたが、韓国やソウルLCCは視野に入ってなかった。

ベースを作ったのは財務省から出向していた伊藤副知事（当時）。韓国人脈を駆使して複数の航空会社に定期便の誘致を打診。最後に残ったのがイースター航空だった。

イースター航空は令和六年十二月二十六日、ソウル・徳島間に定期便を就航させた。ソウルLCCだ。現在の運航日は週二回。火、木だ。徳島空港発着の唯一の国際定期便だ。

足元見られ、搭乗率アップに追われる徳島県

ソウルLCCを就航させた徳島県。運航を維持するために様々な優遇策を打ち出した。運航支援では着陸料や港施設使用料等を助成。販売促進名目でも補助金を出している。

優遇されたイースター航空はしたたかだった。増便や撤退を匂わせ、県を揺さぶった。燃料代高騰による赤字補填を水面下で求めてきた。「金をもっと出せ」というべだ。

足元を見られた県は、搭乗率アップが至上命題となった。中・高校に修学旅行、企業に研修旅行を呼び掛けるなど、「GO TO SEOUL」キャンペーンを展開した。

ソウル出張に動員された県職員、四月二日に二十二人が訪韓

県 職員も搭乗率アップの手駒に使われた。ソウルへの海外出張だ。四月二日（木）、県職員二十二人がソウルLCCで徳島空港から飛び立った。一泊二日の公務海外出張。

二十二人は四チームに分かれた。チーム①は自治体国際化協会ソウル事務所（クレア）、日本政府観光局のソウル事務所を訪問。訪日旅行の動向調査や現地視察を行った。

チーム②は県観光協会の姜盛文（カンスンムン）副理事長が率いた大学訪問チーム。観光協会に派遣された県職員らが延世大学や弘益大学、韓国外国語大学等を訪問した。

チーム③はスポーツチーム。韓国のカヌー連盟やトライアスロン協会、ボーリング協会等を訪問。来年徳島で開催されるワールドマスターズゲームズへの選手参加を案内した。

チーム④はビジネス調査チーム。日本商工会議所やJETROのソウル事務所を訪問。「TGS2026」と呼ばれる韓国フランチャイズ協会主催の展示会を視察した。

ソウルには県職員二人が常駐、疑問呼ぶ出張の必要性

四 チームに分かれたソウル出張のうち、チーム①とチーム④は必要度の低い公務出張だった。特にチーム①は必要性ゼロ。飛行機の席を埋めるだけの公務出張だった。

チーム①はクレアを訪問。スタッフから最近の韓国の流行等をヒアリングしているが、クレアには県職員が二人常駐している。所長補佐の穴田氏と駐在員の西口氏だ。

クレアや日本政府観光局のスタッフから話を聞いたチーム①だが、その公務は本来クレア駐在の穴田、西口両氏の仕事だ。チーム①に対応したのが穴田、西口両氏というのもお粗末な茶番劇だ。

チーム④は日本商工会議所やJETROのソウル事務所スタッフと面談しているが、その公務内容も穴田、西口両氏で十分こなせるものだ。ソウル駐在員に仕事をさせるべきだ。

二泊二日のソウル出張を行った県職員だが、公務を行ったのは四月二日の金曜だけ。出張経費は観光協会所属の五人を除いた十七人で総額約一九四万円。一人平均一二万円だ。

徳島からソウルに向かうアウトバウンド便を埋めるために動員された県職員。帰りのインバウンド便は席が取れず、高松や神戸、関西空港への帰着を余儀なくされた。

韓国の大学生やインフルエンサー招待で搭乗率アップ

ソウルへ向かうアウトバウンド便の搭乗率アップ策が県職員のサクラ出張なら、徳島へ向かうインバウンド便は韓国の大学生やインフルエンサーの招待旅行で搭乗率が上がっている。

四月から六月までの三か月間で大学生約五百人、インフルエンサー約五百人、メディア二十四社を徳島に招聘。ソウルLCCの搭乗率は四月が九十四%、五月が八十%だ。

経費はすべて県負担。県から補助金をもらった県観光協会が面倒を見ている。大学生の場合、四月と五月の二か月で明知大学など三校二六八人を招待。約一、六八一万円を使っている。

四月九日～十一日は明知大学の学生四六人を招待。経費は約三八八万円だ。内訳は航空券代、宿泊代、貸切バス代、渦の道・大塚国際美術館・阿波踊り会館等の入場料、懇親会費用などだ。

県費が投入されるインバウンド客の旅行支出

航空券、宿泊費、バス代、懇親会経費、観光施設の入場料などの経費を県が丸抱えするインバウンド誘客。県が強調する経済効果は自作自演。県費が投入されているということだ。

県はソウルLCCの就航から昨年十一月までの経済効果を約十一億円と発表している。根拠は観光庁のデータ。一人一泊当たりの旅行支出は韓国からの旅行客が平均一万三千円。この数字に人数と泊数を掛けたものだ。

問題は一人一泊一万三千円という旅行支出が徳島に当てはまるか。四月の明知大学生招待旅行の場合、県が負担した旅行支出は一人一泊一万四千円。約一万円の格差がある。

招待された大学生らはポケットマネーで食事したり土産を買っている。徳島でどれだけ金を使ったのか。招待旅行の条件として消費アンケートを実施すべきだ。

経費非開示、闇の中の費用対効果、国際定期便

韓国からのインバウンド客の旅行支出に県費が投入されている徳島県。問題は費用対効果だが、航空会社に流れた補助金額を県が公表しないため、実態は闇の中だ。

後藤田知事はソウルLCCで十一億円、香港LCCで五・六億円の経済効果をアピールするが、その金額は根拠が曖昧で経費が隠されているため、費用対効果が県民に示されていない。

香港・韓国の航空会社への補助金を含む国際定期便利用促進事業費は、令和六、七年度の予算ベースで八億八千万円。ソウルLCCを飛ばすのにいくら使っているのか。ローコストが売りの「飛行機代」を県民に開示すべきだ。

問われる魅力ある徳島づくり

搭乗率というジョーカーをイースター航空から突きつけられ、乗客を増やすために県費を垂れ流す後藤田知事。まるで愛人の気を引くために愛人手当を払っているようなものだ。

金の切れ目が縁の切れ目。いつまでも続くわけがない。必要なのは飛行機を飛ばすことではなく、徳島の魅力づくりだ。魅力ある街には「飛ばさせてください」と航空会社が寄ってくる。

ホールやアリーナ整備に数百億円を使うより、県民の叡知を結集して、世界で徳島にしかないハード&ソフトの魅力づくりや既存の観光コンテンツの認知度アップに活用すべきだ。

飯泉知事は五期二十年、イベント行政優先で持続可能な徳島のレガシーづくりを怠ってきた。後藤田知事も「朝倉改」の県政運営が自立、持続可能性が感じられない。

県政運営で子どもがおもちゃを玩ぶような「つぎがある後藤田知事」。韓国企業に県費を貢ぐ「飛行機遊び」はほどほどにすべきだ。公人と私人の区別がつかず県政私物化と県費濫用を自戒できないなら、知事失格だ。

知事失格?!目に余る県行政の私物化

同じ公文書なのに、ある時は「公開」、ある時は「非公開」 蔑ろにされた住民の「知る権利」

情報公開が機能しておらず、民主主義の根幹が崩れている。

課長が恣意的に判断?!

「同一文書なのに、公開請求する度に公開箇所や非公開箇所が違う」……。徳島県の公文書公開は無茶苦茶だ。担当職員が恣意的に非公開箇所を決めるなど、ルールブックである情報公開条例が形骸化に陥っている。後藤田知事がアピールする「透明度アップ」の現状はお寒い限り。「公開・非公開」の恣意的運用で県民の知る権利が蔑ろにされている。

同一文書なのに、請求の度に異なる公開箇所

本紙は昨年と今年、県が保有する同じ公文書に対し、計三回公開請求を行った。対象は令和七年一月十五日に香港に出張した北川航空戦略幹（当時）の旅行命令簿兼旅費請求書だ。

三回とも県の対応は部分公開だった。文書の一部を黒塗りして、コピーを開示した。問題は黒塗り箇所。同じ文書なのに、三回とも黒塗り箇所が異なっていた。

昨年八月の公開請求に対しては、北川氏の自宅住所が黒塗りされた文書が開示された。航空運賃や現地交通費、宿泊料、旅行雑費など公務出張に要した経費の金額は公開された。

昨年九月の公開請求に対しては、北川氏の自宅住所と出発地、航空運賃や現地交通費、宿泊料、旅行雑費など金額が記載された箇所はすべて黒塗りされた文書が公開された。

今年四月の公開請求に対しては、北川氏の自宅住所と出発地が黒塗りされた文書が開示された。航空運賃など金額が記載された箇所はすべて昨年八月の公開請求同様、公開された。

辻褄が合わない県の非公開対応

担当の観光政策課によると、昨年八月の請求に対し、出発地を黒塗りしなかったのは「ミス」。本来は今年四月の請求に対応したように、出発地も黒塗りすべきだったとのこと。

昨年九月の請求に対し、航空運賃等金額をすべて黒塗りしたのは、「他の二回の請求と異なっていたため」（原観光政策課長）とのことだ。

当社は昨年八月と今年四月の請求では「海外出張の経費」の公開を求め、昨年九月の請求では、「国際定期便利用促進事業の支出に関する文書」の公開を求めた。

「国際定期便利用促進事業の事業費に関する公開請求だったため、出張旅費を公開すると、香港便の赤字補填額が類推されるため、非公開扱いにした」（原観光政策課長）。

香港便の赤字補填額は県議会で問題になった。金額の公開を求めた県議らに対し、県は「グレーターベイ航空の営業秘密に当たる」との理由で頑なに公表を拒否している。

県議会に公表していないから、県民の公文書公開請求に対しても「金額が類推されるから公開しない」ということのようだが、他の二回の公開請求に対しては金額を公開している。

「赤字補填額が類推される」懸念があるなら、いかなる公開請求に対しても、出張旅費の金額は非公開にすべきだ。ある時は公開、ある時は非公開というのは支離滅裂だ。

課長が公開・非公開を決定

そもそも同じ公文書に対する公開請求で、公開するたびに公開内容が異なるというのは、シンプルにおかしい。同じ公文書なら、公開箇所や非公開箇所は同じであるべきだ。

公文書の公開・非公開の基本的な判断基準は情報公開条例で定められているが、実際の運用では公開・非公開は課長権限で決められている。課長が恣意的に決めているということだ。

課長が公開・非公開の箇所を忖度し恣意的に決めるのは独善に陥り、民主主義の根幹を揺るがす恐れがある。公開・非公開は属人性を排した統一したルールで判断すべきだ。

「透明度アップ」のお寒い実態

同じ公文書なのに、ある時は公開、ある時は非公開。これが後藤田知事が標榜する「透明度アップ」の実態だ。情報公開が職員に恣意的に運用され、県民の知る権利が蔑ろにされている。

笑止千万な後藤田県政の支離滅裂情報公開。県費の使途は本来積極的に開示すべき行政情報。「透明度アップ」を強調する前に、県民への説明責任のイロハを勉強し直すべきだ。

徳島県

あなたの情報大募集!!
秘密厳守
守秘義務の徹底で情報提供者の方を必ずお守りいたします。

本紙記者が取材し、公益に反する問題点を徹底追及します。情報提供は本紙HPの情報提供フォームの他、メール、FAXでもお受けします。メールの場合は「返信先アドレス」をご記入ください。G-mailでも構いません。
「身元がバレるのでは」と懸念されるかも知れませんが、情報提供者のプライバシーは厳守しますので、ご安心ください。
社会に警鐘を鳴らす内部告発や情報提供をどしどしお寄せください。

〒770-0874
徳島市南沖洲２丁目4-10
㈱トリビューンしこく編集部
FAX：088-664-4809
TEL：088-664-5219
Eメール：tribune@mail.planning21.ne.jp
本紙ホームページ内の［情報提供］からも投稿できます。

街で見～つけた!! 街角熟女さん No.4

街角熟女さん、今回は大阪キタのライブ・バーで出会った美女。ボディラインがよくわかるエンジ色のワンピースが肉感的セクシーさを演出する。

名前は幸恵さん。幼少期からクラシックピアノを学び、ジャズと出会い大阪音楽大学ジャズコースに入学した才女。

在学中からプロ活動を開始。国内外の多くのミュージシャンと共演し、天満高架下にあるライブハウスが運営する「じゃず家音楽塾」で、ピアノ科の講師も務めている多彩な熟女さんだ。

購読料：年間 8,400円
トリビューン・電子版 tribune.web
購読申し込み頂くと、スマートフォンやタブレット、PCで最新号の閲覧ができます。ネットニュース（速報）もトリビューン電子版で。
お申し込みはHP www.planning21.ne.jp/tribune/ の申し込みフォームから

来年四月オープン予定 つるぎ町

▲集会施設の完成予想図。

隙間の声

一宇地区で建設進む集会施設

交流スペースやトイレ、国の交付金活用

つるぎ町一宇地区に新しい集会施設が誕生する。住民が活用できる交流スペース、観光案内所、二十四時間使えるトイレ等が整備される。令和九年四月にオープン予定だ。

令和七年五月に閉館された一宇公民館の代替施設だ。公民館は築後四十五年が過ぎ、老朽化が進んでいた。耐震基準も満たしていなかった。閉館後、解体された。

公民館閉鎖後、住民から交流イベントが開催できる施設やトイレの整備を求める声が上がった。要望を受け、兼西町長が隣接するつるぎの宿岩戸と連係する施設整備を打ち出した。

計画では地域住民が集会やイベント等多目的に使える交流スペース、観光パンフレットが陳列された無人の観光案内所、事務室、トイレ、授乳室、倉庫、ポーチ等が整備される。

「特に住民からの要望が強かったのがトイレの整備です。男性用、女性用、多目的用など二十四時間使えるトイレを整備します」（つるぎ町一宇出張所の北岡所長）。

一宇集会所と仮称される新施設。整備事業費は約一億五千万円。財源には内閣官房の地域未来戦略本部が所管する地域未来交付金が投入される。国の交付金を有効活用している。

隣接する「つるぎの宿岩戸」、期待される一宇地区の活性化

令和九年四月のオープンを目指し、建設工事が進む一宇集会施設（仮称）。運営では隣接した宿泊施設「つるぎの宿岩戸」とのコラボレーションも期待されている。

「つるぎの宿岩戸」は町の第三セクター・貞光ゆうゆう館が運営する。「つるぎの湯」と言われる温泉やレストランがある宿泊施設だ。「日帰り温泉」としても活用されている。

剣山へのアクセス道に位置し、登山シーズンには多くの登山客や観光客で賑わっている。周辺には、剣山の他、土釜や鳴滝等の観光資源があり、つるぎの自然が堪能できる。

住民が集う集会施設と温泉ファンや観光客、登山客を受け入れる「つるぎの宿岩戸」。隣接する二つの交流施設を有効活用した一宇地区の活性化が期待されている。

ザ・チェック 徳島商工会議所
件数の水増し疑惑で揺れる
巡回指導件数が一年で八六八件も減少

大島会頭職務執行者

依然燻る「テンプラ」疑惑

徳島商工会議所は「テンプラ」疑惑にきっちりケリをつけるべきだ。運営を仕切る専務が代わり、改革への期待感が高まったが、「テンプラ」疑惑は依然燻ったままだ。

「テンプラ」は、経営指導員の巡回指導件数の架空計上のことだ。経営指導員は会員企業を訪問。経営や金融、税務や労働問題等を指導しているが、その件数の水増し疑惑だ。

水増し理由はインセンティブの獲得だ。巡回指導件数が多いほどより多くの補助金が県からもらえる仕組みになっている。件数の水増し報告は県を騙す補助金詐取だ。

会議所OBによると、「テンプラ」疑惑は過去から囁かれていた。昨年職員の長時間労働など会議所のブラック企業体質が表面化。「テンプラ」疑惑も改善を求める声が上がった。

パンドラの箱が開いた「テンプラ」疑惑。令和六年度に二、三七三件だった巡回指導の報告件数は、一、五〇五件。八六八件も減少。水増し報告が改善されたかに見えた。

「報告件数が激減したのは、『テンプラ』疑惑を指摘されて職員が水増しを自主規制したからでは。問題は会議所が組織として『テンプラ』疑惑に対応しているかです（OB）。

飯田専務や中川事務局長に確認すると、会員指導業務における巡回訪問件数の架空計上や水増し計上、いわゆる「テンプラ」は「ありえないし、実際にない」との見解だ。

「件数のカウントの仕方に対する認識の相違では。当会議所では企業訪問だけでなく、セミナー開催時に会員企業から個別相談を受けたり指導した時も巡回訪問件数にカウントしている（中川局長）。

令和七年度の巡回指導件数が前年度より八六八件も減少したことについては、「補助事業が増えて会員からの申請も急増。窓口対応や事務処理に追われて、企業訪問が減ったということです」（中川局長）。

セミナーでの指導を巡回指導にカウントしていると言うが、職員が企業を訪問する巡回指導とセミナーに集まった企業関係者に対する指導を同一視するのは無理がある。

他の会議所では巡回指導とセミナーでの指導は別メニューとして扱っているところが多い。巡回指導件数をかさ上げするための「こじつけカウント」と指摘できるだ。

「テンプラ」疑惑を否定する徳島商工会議所だが、やるべきことは「テンプラ」疑惑を組織の問題として受け止め、改善策を打ち出すことだ。セミナー指導と巡回指導のごちゃまぜカウントもやめるべきだ。

公益性のある地域経済団体、確立できるかコンプライアンス

川島会頭が突然辞任し、会頭不在が続く徳島商工会議所。次期会頭就任が取り沙汰される大島会頭職務執行者と四月に就任した飯田専務に期待されるのは、地域経済団体としてコンプライアンスの確立だ。

昨年末に表面化したブラック企業体質と「テンプラ」疑惑に象徴されるイカサマ体質を速やかに改善すべきだ。会員企業を指導する会議所が「ブラック会議所」では話にならない。

後藤田知事から「阿波とくしま観光大使」を委嘱された北海道テレビの福永裕梨アナウンサー（31）。父親は阿波銀行の福永丈久頭取。